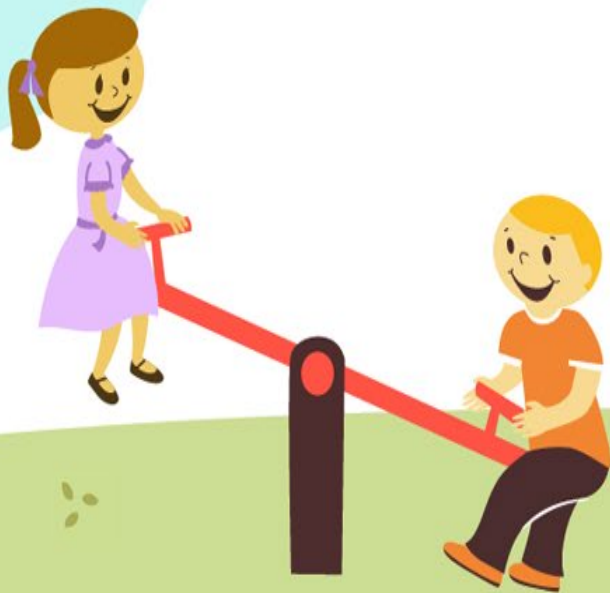


# 不妊去勢のあれこれ

人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業



# 改正動物愛護管理法が施行



## ●2013年9月に改正動物愛護管理法が施行

以下の点が大きく変わりました。

- ①自治体が犬猫の引き取りを拒否できる規定の新設:
- ②「殺処分がなくなることを目指す」目標の明記:
- ③終生飼養の明文化:
- ④動物取扱業の規制強化:

## 殺処分ゼロに向けた取り組み概要

### ①飼い主の意識改革と適正飼養の推進:

- ・終生飼養の啓発活動。
- ・無責任な多頭飼育崩壊を防ぐための啓発。
- ・不妊・去勢手術の推進による無計画な繁殖の抑制。

### ②保護と譲渡の推進:

- ・動物愛護センターや保健所での譲渡会の開催、オンライン譲渡会の実施。
- ・民間動物愛護団体との連携強化による保護活動と里親探し。
- ・地域猫活動（TNR活動: Trap-Neuter-Return 捕獲・不妊去勢手術・元の場所に戻る）の推進による野良猫の繁殖抑制と地域での共生。

### ③行政による取り組み:

- ・引き取り拒否権の行使。
- ・保護された動物の返還・譲渡努力の強化。
- ・動物愛護管理推進計画の策定と実施。
- ・動物愛護推進員の設置など、地域に根ざした活動の促進。

# 前提としてのネコの繁殖力



- ①性成熟が早い:  
生後6ヶ月程度で妊娠可能になるネコが多く、早い個体では生後4ヶ月で妊娠するケースもあります。
- ②妊娠期間が短い:  
約60~65日と短いため、短期間で次々と出産が可能です。
- ③複数回出産:  
年に2~3回出産することが可能です。暖かい地域ではさらに出産回数が増えることもあります。
- ④多産:  
1回の出産で平均4~8頭の子猫を産みます。

一組のネコからわずか数年で数百頭にまで増える可能性を秘めていると言われてしています。これが、野良猫問題の大きな原因となっています。

# 殺処分ゼロの取り組みとその限界



殺処分ゼロを目指す取り組みは、動物収容施設が新たな飼い主を見つける努力を強化することを意味します。しかし、収容スペースの限界や譲渡希望者と保護動物の数のミスマッチが大きな課題です。これらの問題は、動物たちの命に直接影響を与えています。



## ポイント

- 殺処分ゼロの意義と行政の役割
- 収容スペースの制約が課題
- 譲渡先の数とミスマッチが影響

# 猫の繁殖力と収容の影響

猫の繁殖力の高さは、殺処分ゼロの目標に対して大きな障害となっています。特に、TNR活動が進んでいない地域では、野良猫が繁殖を繰り返し、子猫等の受け入れが施設に多大な負担をかけます。収容施設は、こうした猫たちに対するケアを続けなければなりません。



## ポイント

- 驚異的な猫の繁殖力の実情
- 不妊去勢手術が施されない野良猫の問題
- 子猫の受け入れが施設に負担をかける

図出典:もっと飼いたい?犬や猫の複数頭・多頭飼育を始める前に(環境省)

[https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2\\_data/pamph/h2305a/full.pdf](https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h2305a/full.pdf)

# 野良猫問題の現状

## トラブル:

排泄物、ゴミ荒らし、夜間の鳴き声など、住民の生活被害。

## 住民の対立:

無責任な餌やりによる問題発生と、それに対する住民間の対立。

## 課題:

TNR活動・地域猫活動への理解不足、協力者不足。



# 多頭飼育崩壊

## 実態:

不妊去勢せず猫が繁殖し、飼育不能な状態に陥る。

## 発生要因:

飼い主の孤立、経済的困窮、精神・身体疾患など。

## 地域への影響:

悪臭、衛生問題、騒音、動物由来の病気リスク

## 行政・団体への負担:

多数の動物の保護・ケア・譲渡に多大な労力

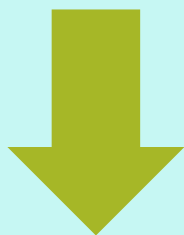
## 本人への影響:

衛生上の理由による医療・介護等サービスの提供が困難病気のリスク



出典:認定NPO法人 人と動物の共生センター

深刻化する前に予防



地域全体で関わる全  
ての人が関心を持つ  
ことが大切

